

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第151期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 日東紡績株式会社

【英訳名】 NITTO BOSEKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 南園克己

【本店の所在の場所】 福島市郷野目字東1番地

【電話番号】 福島(024)546-3131

【事務連絡者氏名】 常務執行役員福島工場長 中原強  
(上記は登記上の本店所在地で実際の本社業務は下記で行っております。)

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区九段北4丁目1番28号

【電話番号】 東京(03)3514-3810

【事務連絡者氏名】 企画管理本部経理財務部長 宇佐見陽

【縦覧に供する場所】 日東紡績株式会社東京本部  
(東京都千代田区九段北4丁目1番28号)

日東紡績株式会社大阪支店  
(大阪市中央区高麗橋4丁目3番10号)

日東紡績株式会社名古屋支店  
(名古屋市中区錦1丁目17番13号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第150期 第3四半期 連結累計期間	第151期 第3四半期 連結累計期間	第150期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	63,344	62,212	84,158
経常利益	(百万円)	4,280	4,330	6,000
四半期(当期)純利益	(百万円)	2,046	1,054	2,806
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,441	288	2,049
純資産額	(百万円)	55,178	54,311	55,785
総資産額	(百万円)	129,714	129,642	128,049
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	10.26	5.29	14.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	41.4	41.3	42.4

回次		第150期 第3四半期 連結会計期間	第151期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	4.28	0.23

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第150期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から持ち直しつつある一方、米国経済の足踏み、欧州の金融不安など世界経済停滞の影響を受け、更に大幅な円高が進行・定着する厳しい状況で推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は622億12百万円（前年同期比11億31百万円の減収）、営業利益は46億72百万円（前年同期比52百万円の減益）、経常利益は43億30百万円（前年同期比50百万円の増益）、四半期純利益は10億54百万円（前年同期比9億92百万円の減益）となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。

#### 繊維事業

繊維事業は、衣料品消費が依然低調であるなか、新商品の開発や高付加価値品への転換を進めてまいりました。

この結果、売上高は48億6百万円（前年同期比8億43百万円の減収）、営業利益は2億10百万円（前年同期比58百万円の減益）となりました。

#### グラスファイバー事業

グラスファイバー事業は、第2四半期以降で在庫調整の動きが見られたものの、通信機器分野、建築・土木分野が堅調に推移しました。

この結果、売上高は337億84百万円（前年同期比26億57百万円の減収）、営業利益は25億7百万円（前年同期比8億22百万円の減益）となりました。

#### 環境事業

環境事業は、断熱材分野は省エネ・環境対応関連の需要が継続し、エンジニアリング・工事分野も堅調に推移しました。

この結果、売上高は140億73百万円（前年同期比20億3百万円の増収）、営業利益は11億33百万円（前年同期比9億13百万円の増益）となりました。

## 医薬・飲料事業

医薬・飲料事業は、体外診断薬分野、スペシャリティケミカルス分野は新規顧客の開拓を推し進め、飲料分野は新商品の開発と拡販に努めてまいりました。

この結果、売上高は83億47百万円（前年同期比4億35百万円の増収）、営業利益は8億42百万円（前年同期比2億26百万円の減益）となりました。

## その他の事業

その他の事業は、不動産・サービス事業などの収益確保に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は12億1百万円（前年同期比69百万円の減収）、営業利益は2億43百万円（前年同期比54百万円の増益）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,296億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億93百万円増加しました。主な要因は、たな卸資産の増加などです。

負債は753億30百万円となり、前連結会計年度末に比べ30億66百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加などです。

純資産は543億11百万円となり、自己資本比率は41.3%と前連結会計年度末に比べ1.1ポイント下落しました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次の通りであります。

### 基本方針の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業理念、当社の企業価値の源泉及び当社を支えるステークホルダーとの良好な関係を十分に理解した上で、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を中長期的に確保・向上させることを真摯に目指す者でなければならないと考えております。もとより、上場会社である当社の株式は、株主又は投資家の皆様に自由に取引されるものであり、当社経営の支配権の移転を伴うような大量買付がなされる場合であっても、これが当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限りにおいて、当社は、これを一概に否定するものではありません。また、当社は、株式の大量買付提案に応じるかどうかの判断も、最終的には株主の皆様の意思に委ねられるべきであると考えております。

しかしながら、近時、我が国の資本市場における株式の大量買付の中には、1)その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、2)株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、3)対象会社の取締役会や株主が買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、4)買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらしたりするために、対象会社による買付者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

とりわけ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させていくためには、1)長年培われた技術資産や人的資産の流出を防ぎ、そのような技術資産や人的資産を中長期的視野で保護育成すること、2)顧客とのネットワークと当社の有するブランド力を維持・強化していくこと等に重点を置いた経営が必要不可欠であります。これらが、当社の株式の大量買付を行う者により中長期的に確保さ

れ、向上させられるのでなければ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることになると考えております。また、外部者である買収者からの大量買付の提案を受けた際には、上記事項のほか、当社の有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果、多岐にわたる事業分野やグループ企業間の有機的結合により実現され得るシナジー効果、その他当社の企業価値を構成する事項等、様々な事項を適切に把握した上で、当該大量買付が当社の企業価値・株主共同の利益に及ぼす影響を判断する必要があります。

こうした事情に鑑み、当社としては、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては、必要かつ相当な対抗をすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

基本方針の実現に資する取組みについて

#### (ア)当社の企業理念

当社は、『日東紡グループは、「健康・快適な生活文化を創造する」企業集団として社会的存在価値を高め、豊かな社会の実現に貢献し続けます』との経営理念に基づいて、時代の要請に即応し、社会の役に立つ新しい価値を創造し提供し続けることで、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上することに努めております。

また、当社は、上記経営理念のもとに、会社固有の価値観を以下の通り「日東紡宣言」としてわかりやすい文章で表現し、社員が常に意識しながら、自ら考え、行動できるように努めております。

- ・日東紡グループは社会の「ベストパートナー」を目指します。
- ・私たちは、お客様の求めるものを絶えず追究し、お客様に「安心と信頼」を誠実にお届けすることを喜びとします。また、企業活動を通じ株主・投資家・行政・地域社会等すべてのステークホルダー（社会）と共に喜びを分かち合うことを大切にします。
- ・私たちは自立した一人ひとりの社員の可能性を尊び、自由闊達にアイデアを出し合いながらチームワークにより力を発揮する企業集団を目指します。
- ・私たち企業グループは社員の成長が会社の成長であることを信じ、社員に成長と自己実現の機会を提供します。

社員はまず第一に良き市民であり、深く考え、広く見渡し、果敢に行動します。そして粘り強くやり遂げます。

#### (イ)当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上への取組み

当社は「繊維メーカー」として創業して以来、永年にわたって技術、知識を世代間で蓄積・継承し続けることにより、中長期的視点に基づいた様々な固有のノウハウを培ってまいりました。それを背景に旺盛なパイオニア精神を発揮しながら、グラスファイバー事業、環境事業、メディカル事業などに次々とチャレンジして経営の多角化に取り組んでまいりました。また、早くから海外に事業拠点を拡大したり、海外企業との強固なネットワークを構築したりするなど、グローバルな視点での経営資源の強化を進めております。

さらに当社は、地球環境の次世代への継承や持続的発展に貢献することを基本理念とした「日東紡環境憲章」を制定し、すべての事業活動において環境に配慮した製品・サービスを提供し、環境保全に努めております。

#### (ウ)当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の基盤となる仕組み（コーポレート・ガバナンスの強化）

当社は、経営の透明性の向上と法令遵守を徹底して企業価値を高めることがコーポレート・ガバナンスの基本であると認識し、そのため経営環境の変化に迅速に対応できる内部統制システムを構

築しております。「日東紡行動綱領」並びに「行動規準」を掲げ、経営トップが率先垂範するとともに、役職員に周知徹底させるために様々な施策を講じて全社的な活動を展開しております。また、リスクの発生を想定した緊急対応策を制定するなど、安全で安心な製品・サービスを提供するためのリスク管理体制の整備も行っております。

具体的には以下の事項に取り組んでおります。

- A) 執行役員制度を導入して、取締役会による意思決定と監督、並びに執行役員による業務執行機能をより充実させ、環境変化に即応した経営体制の強化に努めております。
- B) 経営環境の変化に対応して機動的に経営体制を構築するとともに、事業年度における経営責任を一層明確にするため、取締役の任期を1年としております。
- C) 取締役のうち1名を社外取締役としており、業務執行機関に対する取締役会の監督機能をより強化する体制を確立しております。
- D) 監査役4名のうち2名を社外監査役としており、透明性の高い公正な経営監視体制を確立しております。
- E) 取締役の解任要件を、会社法の原則（会社法第339条第1項、第341条）に従い普通決議にしております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成23年6月29日開催の定時株主総会において、「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」を、一部内容を変更した上で継続することを株主の皆様にご承認いただいております。以下では、一部内容を変更した上継続した「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」を「本プラン」といいます。

その概要は以下の通りであります。

#### (ア)本プランの目的

本プランは、当社株式に対する大量買付が行なわれた際に、当該大量買付に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が株主の皆様にご提案を提案するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する大量買付を抑止することを目的としております。

#### (イ)本プランの内容

当社は、本プランに基づき、以下a又はbに該当する買付等がなされた場合に、本プランに定める手続に従って、買付者等による権利行使は認められないとの行使条件及び当社が買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得する旨の取得条項が付された新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）の無償割当てを実施いたします。

- a.当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付等
- b.当社が発行者である株券等について、公開買付けに係る株券等の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

上記a又はbに定める買付等を行う買付者等は、当社取締役会が友好的な買付等であると認めた場合を除き、当該買付等の実行に先立ち、当社に対して、買付内容等の検討に必要な情報及び本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面を当社の定める書式により提出していただきます。

その後、買付者等から提出された情報が、経営陣から独立している社外取締役、社外監査役又は有識者のいずれかに該当するもので構成される独立委員会に提供され、その評価、検討を経るものいたします。独立委員会は、買付者等により提出された情報が本必要情報として不十分であると判

断した場合には、自ら又は当社取締役会等を通じて買付者等に対し、適宜回答期限を定めた上、追加的に情報を提出するよう求めることがあります。この場合、買付者等においては、当該期限までに、かかる情報を追加的に提出していただきます。

独立委員会は、買付者等が本プランに定められた手続を遵守しなかった場合、又は買付者等の買付等の内容の検討等の結果、買付者等による買付等が本プランに定める要件のいずれかに該当し、本新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断した場合には、独立委員会検討期間の開始又は終了の有無を問わず、当社取締役会に対して、本新株予約権の無償割当ての実施、又は本新株予約権の無償割当ての実施について株主総会の決議を得ることを勧告いたします。

当社取締役会は、独立委員会の上記勧告を最大限尊重して新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等に関する会社法上の機関としての決議を行うものいたします。また、独立委員会から本新株予約権の無償割当ての実施について株主総会の決議を得るべき旨を勧告された場合、又は当社取締役会が株主総会の開催に要する時間等を勘案した上、善管注意義務に照らし株主の意思を確認することが適切と判断する場合には、実務上可能な限り速やかに株主総会を招集し、新株予約権の無償割当ての実施に関する議案を付議いたします。

本プランにおける新株予約権の無償割当ての実施に関する事項の決定権限の委任期間（以下「有効期間」という。）は、平成23年6月29日開催の定時株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までといたします。

ただし、有効期間の満了前であっても、当社の株主総会において本プランに係る無償割当てに関する事項の決定についての取締役会への上記委任を撤回する旨の決議が行われた場合、又は当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されるものいたします。また、当社取締役会は、本プランの有効期間中であっても、平成23年6月29日開催の定時株主総会決議による委任の趣旨に反しない場合には、独立委員会の承認を得た上で、本プランを修正し、又は変更する場合があります。

当社は、本プランの廃止又は変更等がなされた場合には、当該廃止又は変更等の事実及び（変更等の場合には）変更等の内容その他の事項について、情報開示を速やかに行います。

本プランが会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則を以下の諸点より完全に充足し、また、企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」による指摘事項を反映させ改善しており、会社の支配に関する基本方針及び株主共同の利益に沿うものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

(ア)株主意思を重視するものであること（株主総会決議とサンセット条項）

本プランは、平成23年6月29日開催の定時株主総会における決議を経て継続を承認されたものであります。

また、本プランの有効期間の満了前であっても、当社株主総会において撤回する旨の決議がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、その意味で、本プランの継続はもとより消長につきましても当社株主総会の意思に基づくこととなっております。

(イ)取締役の任期が1年であること

当社取締役の任期は1年となっております。したがって、本プランの有効期間中であっても、当社取締役の選任を通じて株主の皆様のご意向を反映させることが可能であります。

(ウ)独立性の高い社外取締役等の判断の重視と情報開示

当社は、本プランの継続にあたり、取締役の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために、本プランの発動及び廃止等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として、独立委員会を設置しております。

独立委員会は、当社経営陣からの独立性が高い当社社外取締役、当社社外監査役、又は当社が独立委員会規程に定める要件を満たす有識者のいずれかに該当する者の中から当社取締役会が選任した者3名で構成されております。

(エ)合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、予め定められた合理的な客観的発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

(オ)第三者専門家の意見の取得

独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含む。）の助言を受けることができるものとしております。これにより、独立委員会による判断の公正さ・客観性がより強く担保される仕組みとなっております。

(カ)デッドハンド型やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株券等を大量に買い付けようとする者が、自己の指名する取締役を株主総会で選任し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能となっておりますので、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社は、取締役の任期を1年としておりますので、本プランはスローハンド型（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は12億39百万円であります。



(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

アドバイザリーボードの設置について

当社は、経営に関して大所高所から多面的なご意見を頂く場として、平成23年8月1日にアドバイザリーボードを設置いたしました。

世界経済の構造変化が続く中、当社グループは、「人と地球環境に貢献する企業」として諸責任を将来にわたって果たしていくため、事業基盤の強化と企業価値の向上に努めております。

こうした企業目標の達成の観点から、この度、設置したアドバイザリーボードの方々には、中国を始めとしたアジアビジネスの更なる展開を始め、グローバルな視点から、事業運営全般にわたって貴重なアドバイスを頂くこととしております。

[ アドバイザリーボードのメンバー（当社アドバイザー） ]

みずほフィナンシャルグループ

名誉顧問 齋藤 宏 氏

伊藤忠商事株式会社

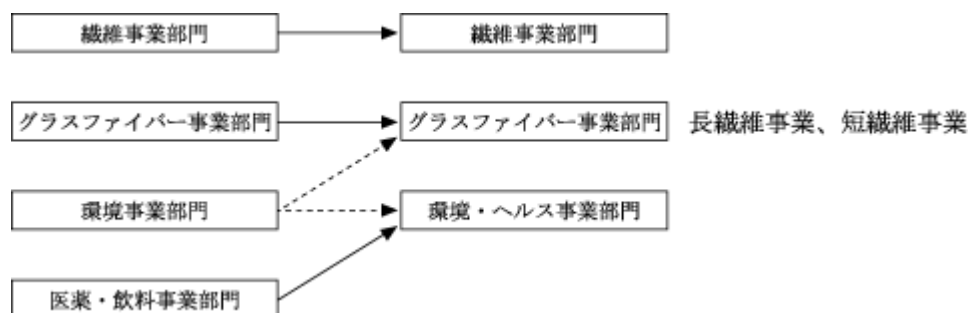
代表取締役社長 岡藤 正広 氏

組織改編の実施について

当社は本年4月1日付で、グループの事業基盤を一層強固にするための組織改編を実施することとしております。

[改編内容]

- ・環境事業部門所管のパラマウント硝子工業株式会社、株式会社日東紡テクノ、並びにエンジニアリング事業をグラスファイバー事業部門に移管する。
- ・グラスファイバー事業部門は、「長繊維事業」と「短繊維事業」の二本立ての運営とする。
- ・環境事業部門（グリーン事業、日東紡音響エンジニアリング株式会社、並びに日東紡エコロジー株式会社）と医薬・飲料事業部門を統合し、「環境・ヘルス事業部門」とする。これにより、4事業部門制から3事業部門制となる。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	600,000,000
計	600,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	247,677,560	247,677,560	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数1,000株
計	247,677,560	247,677,560		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日		247,677,560		19,699		19,029

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 48,347,000 (相互保有株式) 普通株式 12,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 197,983,000	197,983	
単元未満株式	普通株式 1,335,560		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	247,677,560		
総株主の議決権		197,983	

(注)1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権3個)含まれております。

2 単元未満株式には、当社所有の自己株式811株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) 日東紡績株式会社	東京都千代田区九段北4 丁目1番28号	48,347,000		48,347,000	19.52
(相互保有株式) 株式会社アベイチ	大阪府大阪市中央区常盤 町2丁目2番28号	12,000		12,000	0.00
計		48,359,000		48,359,000	19.52

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次の通りであります。

### 役職の異動

役員の氏名	新役職名	旧役職名	異動年月日
清水 秀晃	専務取締役 (企画管理本部長 兼 開発本部長 兼 経営リスク管理担当)	専務取締役 (企画管理本部長 兼 開発本部長 兼 開発企画部長 兼 経営リスク管理担当)	平成23年7月1日
	専務取締役 (企画管理本部長 兼 企画総務部長 兼 開発本部長 兼 経営リスク管理担当)	専務取締役 (企画管理本部長 兼 開発本部長 兼 経営リスク管理担当)	平成23年9月11日
	専務取締役 (企画管理本部長 兼 人事部長 兼 企画部長 兼 経営リスク管理担当)	専務取締役 (企画管理本部長 兼 企画総務部長 兼 開発本部長 兼 経営リスク管理担当)	平成23年10月1日
野崎 有	常務取締役 (企画管理本部副本部長 総務部・経理財務部 ・情報システム部担当)	常務取締役 (企画管理本部副本部長 兼 人事部長)	平成23年10月1日
草野 英夫	取締役 (企画管理本部副本部長 コンプライアンス統括部・ 調達統括部・NEXT推進室担当 兼 コンプライアンス統括部長)	取締役 (企画管理本部副本部長 兼 コンプライアンス統括部長)	平成23年10月1日
平山 紀夫	取締役 (グラスファイバー事業部門 福島研究所長)	取締役 (開発本部福島研究所長)	平成23年10月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,660	11,273
受取手形及び売掛金	24,254 <sup>2</sup>	27,154 <sup>2</sup>
商品及び製品	7,010	8,424
仕掛品	3,176	3,698
原材料及び貯蔵品	12,901	14,188
繰延税金資産	1,659	1,485
短期貸付金	10	10
その他	1,597	1,594
貸倒引当金	74	40
流動資産合計	65,197	67,787
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,019	13,740
機械装置及び運搬具（純額）	8,379	7,711
土地	17,645	17,639
リース資産（純額）	732	578
建設仮勘定	340	1,112
その他（純額）	826	739
有形固定資産合計	41,943	41,521
無形固定資産		
無形固定資産	1,810	1,666
投資その他の資産		
投資有価証券	9,535	9,632
長期貸付金	20	18
繰延税金資産	8,827	8,374
その他	782	689
貸倒引当金	68	47
投資その他の資産合計	19,097	18,666
固定資産合計	62,851	61,854
資産合計	128,049	129,642

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 9,533	2 12,394
短期借入金	6,540	6,395
1年内返済予定の長期借入金	9,796	7,874
リース債務	136	154
未払法人税等	434	1,034
繰延税金負債	6	2
賞与引当金	1,489	626
災害損失引当金	912	331
その他	4,823	6,363
流動負債合計	33,672	35,175
固定負債		
長期借入金	19,044	20,695
リース債務	630	596
繰延税金負債	87	79
退職給付引当金	11,986	12,030
修繕引当金	4,474	4,945
事業構造改善引当金	657	219
その他	1,709	1,587
固定負債合計	38,590	40,154
負債合計	72,263	75,330
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,699	19,699
資本剰余金	23,062	23,062
利益剰余金	21,940	21,997
自己株式	8,860	8,873
株主資本合計	55,841	55,886
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	574	123
繰延ヘッジ損益	-	0
為替換算調整勘定	2,101	2,459
その他の包括利益累計額合計	1,527	2,336
少数株主持分	1,471	761
純資産合計	55,785	54,311
負債純資産合計	128,049	129,642

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	63,344	62,212
売上原価	44,935	43,958
売上総利益	18,408	18,254
販売費及び一般管理費	13,684	13,581
営業利益	4,724	4,672
営業外収益		
受取利息	9	9
受取配当金	146	212
持分法による投資利益	314	335
受取賃貸料	69	62
その他	214	260
営業外収益合計	752	881
営業外費用		
支払利息	530	445
退職給付会計基準変更時差異の処理額	342	335
為替差損	31	133
その他	292	307
営業外費用合計	1,196	1,222
経常利益	4,280	4,330
特別利益		
固定資産売却益	16	-
投資有価証券売却益	-	85
貸倒引当金戻入額	19	-
事業構造改善引当金戻入額	-	207
特別利益合計	36	292
特別損失		
固定資産処分損	358	82
投資有価証券評価損	-	332
環境対策費	158	-
災害による損失	-	910
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	184	-
その他	231	44
特別損失合計	933	1,369
税金等調整前四半期純利益	3,383	3,253
法人税、住民税及び事業税	451	1,242
法人税等調整額	840	913
法人税等合計	1,291	2,155
少数株主損益調整前四半期純利益	2,091	1,098
少数株主利益	45	43
四半期純利益	2,046	1,054



【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,091	1,098
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	254	451
繰延ヘッジ損益	60	0
為替換算調整勘定	326	144
持分法適用会社に対する持分相当額	128	214
その他の包括利益合計	649	809
四半期包括利益	1,441	288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,397	245
少数株主に係る四半期包括利益	44	43

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、以下の債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)	
従業員住宅資金	0百万円	従業員住宅資金	- 百万円
NITTOBO ASCO Glass Fiber Co., Ltd.	141百万円 (50,000千台湾ドル)	NITTOBO ASCO Glass Fiber Co., Ltd.	128百万円 (50,000千台湾ドル)
計	141百万円	計	128百万円

(2) 保証予約債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対し、保証の予約を行っております。

前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)	
NITTOBO ASCO Glass Fiber Co., Ltd.	308百万円 (109,500千台湾ドル)	NITTOBO ASCO Glass Fiber Co., Ltd.	- 百万円 ( - 千台湾ドル)
計	308百万円	計	- 百万円

(3) 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形割引高	19百万円	44百万円
受取手形裏書譲渡高	4百万円	- 百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であった為、当第3四半期連結会計期間末日の残高に以下の金額が含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形	- 百万円	772百万円
支払手形	- 百万円	918百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
減価償却費	4,418百万円	4,001百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	797	4.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	996	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	繊維事業	グラスファイバー事業	環境事業	医薬・飲料事業	その他(注)1	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高							
外部顧客への売上高	5,650	36,441	12,069	7,912	1,270	-	63,344
セグメント間の内部売上高又は振替高	5	485	695	18	227	1,432	-
計	5,655	36,927	12,765	7,930	1,497	1,432	63,344
セグメント利益又は損失( )	269	3,330	219	1,068	188	352	4,724

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、サービス事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額 352百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	繊維事業	グラスファイバー事業	環境事業	医薬・飲料事業	その他(注)1	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高							
外部顧客への売上高	4,806	33,784	14,073	8,347	1,201	-	62,212
セグメント間の内部売上高又は振替高	8	326	1,025	234	101	1,695	-
計	4,814	34,110	15,098	8,582	1,302	1,695	62,212
セグメント利益又は損失( )	210	2,507	1,133	842	243	264	4,672

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、サービス事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額 264百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	10円26銭	5円29銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,046	1,054
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,046	1,054
普通株式の期中平均株式数(千株)	199,444	199,357

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月9日

日東紡績株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 樋口 義行 印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 惣田 一弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日東紡績株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日東紡績株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。